

〈令和4年度 全国学力学習状況調査の結果について〉

4月19日に中学校3年生を対象に実施された全国学力学習状況調査の各教科に関する結果についてお知らせいたします。

◎教科別調査結果(平均正答率 %)

	国語	数学	理科
本校	71	54	52
神奈川県	69	53	50
全国	69	51.4	49.3

《課題と取組》

国語：平均正答数・平均正答率ともに、神奈川県・全国を上回る結果となった。とりわけ『言葉の特徴や使い方』と『読むこと』に関する事項で目立っていた。言語事項的な分野で、基礎的な力はついていることが伺える。一方で、『情報の扱い方』に関する事項では、神奈川県・全国平均と比較すると、低い結果となっていた。文に書かれている内容を捉えて分析する力に、やや課題が残ったといえる。

数学：平均正答数・平均正答率ともに、神奈川県・全国を上回る結果となった。とりわけ『数と式』『図形』『関数』に関する事項で目立っていた。基礎的計算能力や数的に物事を捉える力についてはついていることが伺える。一方で、『データの活用』に関する事項では、神奈川県・全国平均と比較すると、低い結果となっていた。グラフなどのデータを分析する力に、やや課題が残ったといえる。

理科：神奈川県・全国の平均正答率と比べ平均正答率はやや高い。にもかかわらず、気圧・気温・湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて適切な天気図を選択する問題では平均正答率は低くなっている。これは上記した数学の結果と類似していることがわかる。これからの授業では知識理解を深めるような授業をすることはもちろんであるが、実験データ等の情報から、現象の仕組みを考察する力が求められている。

3教科を通じて、思考力や判断力、資料を読み取る力などを意識した授業を展開していくことが必要だと考えられる。